

演習（山田晴通）

2026年1月9日（金）

衰退した自動販売機の現状とその原因についての追究

～コンビニエンスストアの台頭による衰退～

コミュニケーション学部メディア社会学科3年

小田 倫斗

本報告の構成

1. 本報告の目的
2. 自動販売機の定義
3. 自動販売機におけるアクター（行為主体）
4. 衰退した自動販売機の定義と実例
5. コンビニエンスストアの台頭
6. 結論
7. 参考文献

1. 本報告の目的

自動販売機は便利なものであり、過去には乾電池の自動販売機であったり、米の自動販売機であったりと多種多様な自動販売機が存在していた。しかし、現在では稼働が終了しているものや、成人向け雑誌の自動販売機のようにひっそりと残ってはいるが稼働状況が著しく悪いものもある。その様子は街の景観にも現れてきている。そこで私は町の至る所にある飲料以外の自動販売機や稼働していない自動販売機に注目し、その原因は何であるかというのを追求しようと思い、調査することにした。

まず衰退している自動販売機を定義づけして、その具体例を挙げながら、衰退した主な原因を、先行研究などを用いて調査し、現状を明らかにしながら今後これらの自動販売機がどのようになるのか予想する。

2. 自動販売機の定義

自動販売機の定義は黒崎貴(2012)によると（以下引用）、「通貨もしくはそれに代替するものの投入、挿入等により、自動的に物品の販売またはサービスの提供を行う機器」（[引用1](#)）とされている。この定義によると券売機や両替機も当てはまるという。自動販売機の多種多様さもこの定義からわかる。（[参考1](#)）

3. 自動販売機におけるアクター（行為主体）

売り手側

自動販売機において売る側のアクターは主に6種類存在する。

- ・自動販売機メーカー
- ・自動販売機の中身商品のメーカー
- ・通貨関連機器のメーカー
- ・ロケーションオーナー
- ・オペレーター
- ・設置、整備事業者

この6つのアクターの中で、特にロケーションオーナーとオペレーターについて注目する。ロケーションオーナーとは設置する場所の所有者、または管理者のことを指し、オペレーターを自ら担う場合もある。そして、このオペレーターとは自動販売機の管理運営を生業とする事業者を指し、中身商品のメーカーが兼業する場合もある。（[参考2](#)）

自動販売機統一ステッカー

また自動販売機は常に上で記した6種類の事業者が常駐していないため、苦情の対応などが小売店のようにすぐ対応することができない。そのため、管理者と連絡をするために自動販売機統一ステッカーが1975年、通商産業省、大蔵省、農林水産省、厚生省の四省が協議した結果生まれた。苦情の例としては、おつりが出ない、商品が出ないといったものがある。（[参考3](#)）

4. 衰退した自動販売機の定義と実例

衰退した自動販売機の定義することは難しいため、簡潔に定義すると稼働が終了している、または稼働状況が著しく悪い自動販売機を現状では指すことにする（2025年7月

22日現在)。これに当てはまる自動販売機の例を挙げると、以下のものが当てはまる。

- ・パチンコのCR機(カードリーダー機)に対応するプリペイドカードの券売機([参考4](#))

- ・酒類の自動販売機
- ・たばこの自動販売機
- ・成人向け雑誌およびビデオの自動販売機
- ・乾電池の自動販売機
- ・米の自動販売機

現在確認できるもので、以上の自動販売機の中で稼働が完全に終了しているものはCR機のプリペイドカードの券売機のみである。これは2022年に風営法の改正によってパチンコ店から撤去されていった。

以下の自動販売機は私が発見した稼働が終了している自動販売機である。実際の写真と共に各々の特徴を記していく。

●乾電池の自動販売機（サトウ電器サービス）2025年8月4日撮影



東久留米市に設置してある乾電池の自販機である。National というのは松下電器が1931年から販売していた電池のブランド名である。この自動販売機はその乾電池が売られていたことがわかる。実物の乾電池が商品のサンプルとして展示されているが、経年劣化で元の姿とはかけ離れている。また、サンプルは養生テープで隠されているため、稼働していないこともわかる。値段は200円から280円であった。自動販売機統一ステッカーは確認できなかったため、この自動販売機を設置しているサトウ電器サービスがロケーションオーナーとオペレーターを担っていたと考えられる。機械を製造したメーカーを知ることはこの場所ではわからなかった。





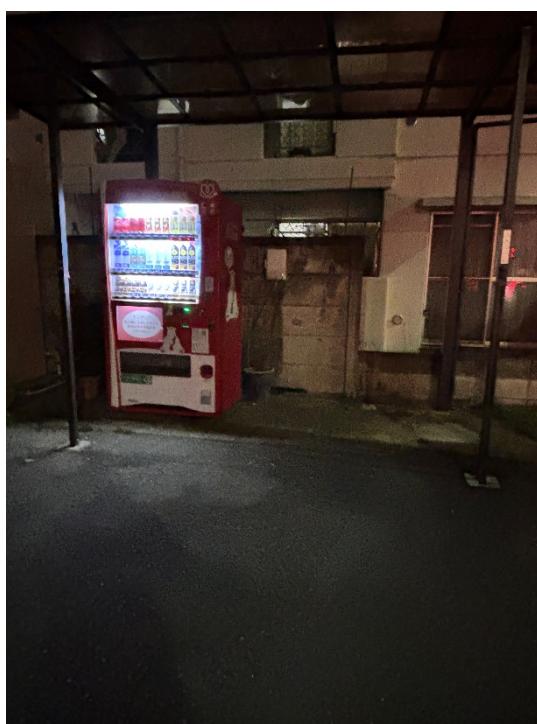
所在地 東京都東久留米市滝山7丁目20-6

●米の自動販売機（鈴木栄太郎商店）2025年7月31日撮影



米を販売している商店の横にこの自動販売機が設置されていた。商品のサンプルは展示されておらず、稼働している様子もなかつた。いつ頃稼働していたのかという情報も得ることができず、ステッカーも確認できなかつた。ロケーションオーナーとオペレーターは前の自販機同様、鈴木栄太郎商店であると考えられる。

●その後 2025年9月16日撮影



数か月後に再び訪れたところ、この自動販売機は撤去されていることが分かつた。なぜ、撤去されたのか、費用はいくらぐらいかかったのかなどを知りたいのだが、直接インタビューをすることはできていない。しかし、稼働が終了し、撤去されているため、衰退の一歩をこの目で見ることができた。

所在地 東京都国分寺市東恋ヶ窪6丁目8-11 鈴木荘

●成人向け雑誌およびビデオの自動販売機 2025年8月25日撮影

これは成人向け雑誌や成人向けの玩具を販売している自動販売機の写真である。万引き



対策として鉄格子が自動販売機を覆っており、その他のものには監視カメラが自動販売機内部に設置されていた。自動販売機はプレハブの小屋の中に入り、全部で4台ほど設置されていた。全4台稼働中であり、DVDのケースや雑誌などのゴミが散らかっていたことから、現在も稼働中で、実際に誰かがこの小屋に入って商品を購入していたことが分かった。新紙幣にも対応していて、ロケーションオーナーまたはオペレーターが定期的にメンテナンスをしていることも分かった。商品内容としては、雑誌やDVD、玩具など様々である。

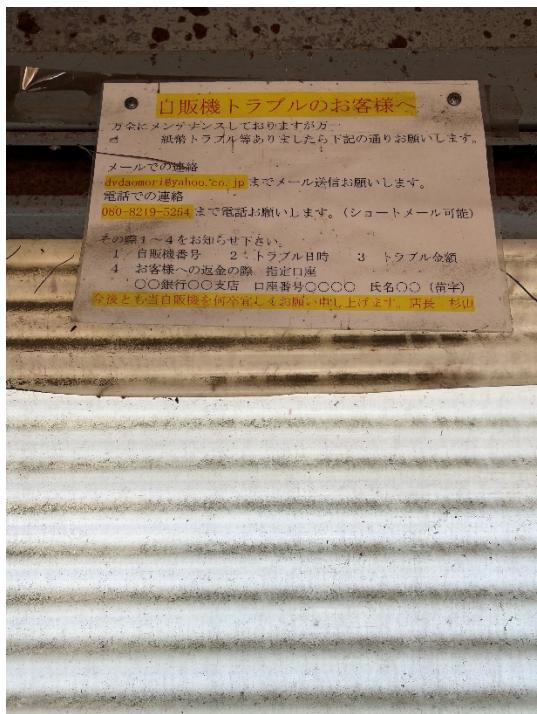


これは、おそらく自動販売機のメーカー名ではないかと予想される。検索エンジンを用いて調べたところ、LANDENといったメーカー名は見つけることができなかった。ま



た、自動販売機統一ステッカーが貼ってあり、ロケーションオーナーとオペレーターを知ることができた。





所在地 青森県八戸市大久保大塚

●コンドームの自動販売機 2025年12月1日撮影



こちらはコンドームの自動販売機である。ここでは数台ほど自動販売機が並んでおり、ジュースやお菓子の自動販売機と並んで設置されていた。かなり機械の状態が良く、様々な情報を得ることができる。例えば、一番上には「ユカ VENDING SERVICE」という文字が見える。ユカとは自動販売機設置事業を取り扱っている株式会社である。ダイドーやアサヒの飲料自動販売機の設置や食品（お菓子や軽食など）を販売する自動販売機の設置を行っている企業である。つまり、オペレーターやロケーションオーナーなどを担当しているということだ。（参考5）



次に注目するのは、硬貨の挿入口である。「ただいまの金額 00円」と金額が表示されているがこの下にあるステッカーに注目すると、「新旧 500 円使用できます」と書かれていることがわかる。つまり、この自動販売機は現在も稼働中であり、定期的なメンテナンスが行われていることがわかる。



そして、こちらの自動販売機には管理会社の連絡先や担当会社が書かれているステッカーが貼ってあった。このステッカーには、管理者名であるサガミサンギョウとコンドームのメーカーである相模ゴム工業株式会社が書かれている。しかし、このステッカーは違うステッカーの上に貼られていることがわかる。のことから考えられるのは、元々は先ほど述べた株式会社ユカがメンテナンスやクレーム対応などを担当していたが、相模ゴム株式会社がユカに代わり、その役目を担っているのではないだろうか。このような疑問から機械のメーカーを調べたところ、相模ゴム工業株式会社が直接製造していることが分かった。（参考6）サガミと同様に不二ラテックスというメーカーも自動販売機業を過去にしていたことも分かった。（参考7）

所在地 東京都東久留米市下里5丁目9-12

●鯉エサの自動販売機



引用 : Tripadvisor

https://www.tripadvisor.jp/LocationPhotoDirectLink-g1021394-d6216057-i91676669-Kuki_Shobu_Park-Kuki_Saitama_Prefecture_Kanto.html (2025年12月12日閲覧)

鯉エサの自動販売機（ガチャガチャ） 2025年11月30日撮影



他にどのような自動販売機の例があるのか気になったため、検索エンジンを使用したところ、鯉のエサの自動販売機を見つけた。この画像が投稿されたのは2014年ごろであり、10年以上たった今現存するのか気になり実際に赴くことにした。

所在地 埼玉県久喜市河原井町70

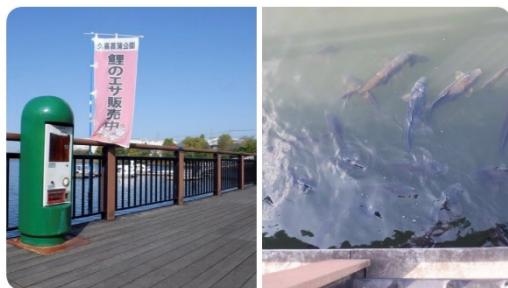
← ポスト ...

久喜菖蒲公園【公式】
@kukisyoubupark

X.com

明日(11月1日)から来年の3月中旬頃まで、ウッドデッキ改修工事のため、コイのえさ販売がしばらくの間、お休みになります。申し訳ありませんが、工事が終了するまでお待ちください。

#久喜菖蒲公園 #鯉のエサあげ #ウッドデッキ改修工事



15:56 · 2023/10/31 · 263回表示



引用 2 : X 久喜菖蒲公園【公式】

<https://x.com/kukisyoubupark/status/1719246864594440559> (2025年12月12日閲覧)

久喜菖蒲公園の公式 X を閲覧したところ、2023年10月31日にウッドデッキの改修工事のため、鯉エサの販売を休止すると投稿されていた。その投稿には画像が添付されており、私が探し求めていた自動販売機が映されていた。

5. コンビニエンスストアの台頭

●自動販売機とコンビニエンスストアの共通点

私はある特定の自動販売機が衰退していった原因の一つにコンビニエンスストアが関係していると考えた。なぜなら、自動販売機とコンビニエンスストアは共通点が多く、競合してきたのではないかと考えたからだ。そこでまず、コンビニエンスストアと比較するために自動販売機のメリットをいくつか挙げていく。

- ・ 24時間利用可能である。
- ・ 無人での販売が多く、コミュニケーションの手間が省ける。
- ・ 飲料のみならず、食品やたばこ、雑誌など幅広く販売している。
- ・ 様々な場所に設置されており、商業施設やスーパーマーケットの中でも稼働している。

以上4つの点をコンビニエンスストアの視点から見ていく。まず、24時間営業可能であるという点である。日本において出店数が多い3つのコンビニはセブンイレブン、ローソン、ファミリーマートである。この3つの中で24時間営業を始めたのが一番早かったコンビニエンスストアはセブンイレブンであり、1975年に福島県の虎丸店が開始した。[\(参考8\)](#) それ以前に24時間営業をしていた小売店は存在せず、多種多様な商品を売っているだけでなく24時間営業しているという利便性が他の小売店との差別化を可能とした。このことから他のコンビニエンスストアが24時間営業を取り入れ始め、その影響は飲食店にも及んだ。

次は無人での販売である。現在、日本では無人のコンビニエンスストアが限定的に出店されているが、基本的に1人以上は店内に居り、セルフレジが導入されてきた店も増えてはいるが、完全な無人化は普及しきれていない。考えられることとして、自動販売機と違って商品を手に取ることができるために、万引きのリスクが高まる。また、酒やたばこを販売することが年齢確認の手間を考慮すると容易ではないだろう。コミュニケーションをとる手間が、セルフレジが導入され始めていることで、省かれてきてはいるが無人化という観点に関してはあまり共通のメリットとは言えない。

次は商品の多種多様さである。コンビニエンスストアでは飲料や食品に限らず、たばこや酒、生活用品、雑誌など幅広く商品を取り扱っている。商品の種類は3000種類にも及び、それが1つの場所に集約している。コンビニの方がこの点において有利と言える。

そして、コンビニエンスストアは屋外に店舗を構えるだけでなく、病院や駅構内にも展開している。最近では、ローソンが香川県の小豆島といった離島にまでも出店しているため、全国津々浦々に存在する。この点はどちらも共通している点である。[\(参考9\)](#)

●自動販売機はいつごろから発展したのか

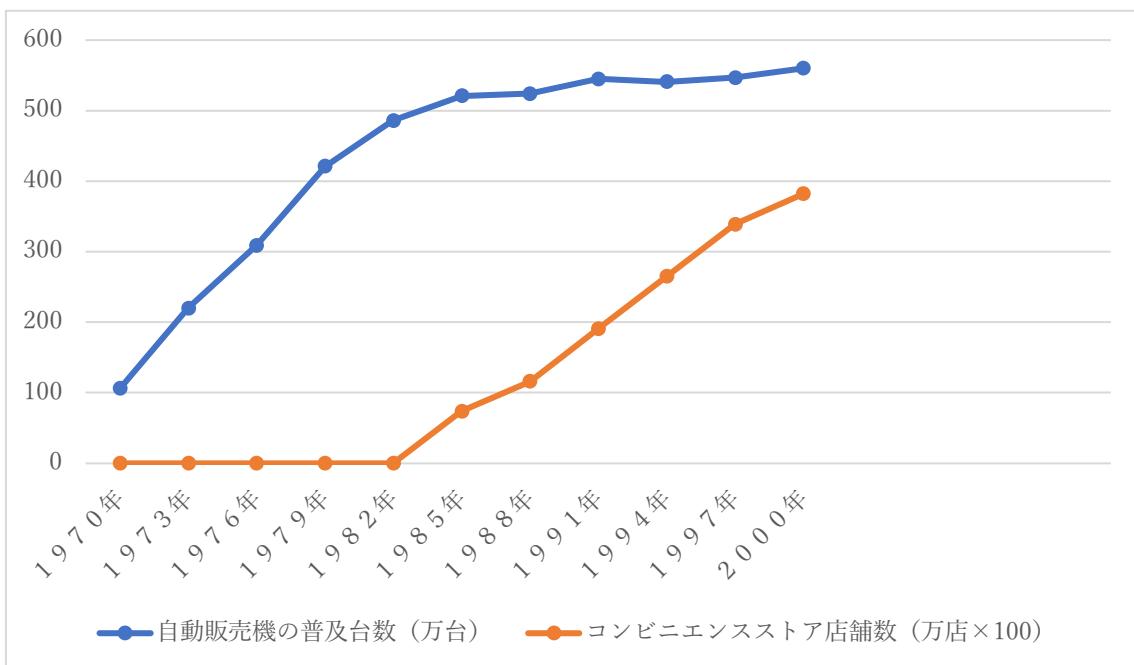
以上、自動販売機とコンビニエンスストアの共通点を述べたところで、自動販売機はいつごろから発展してきたのかという点に注目したい。鷺巣力の『自動販売機の文化史』によると（以下引用）「日本で自動販売機が大いに発達したのは戦後のことであるが、日本自動販売機工業会によって記録が取られ始めた一九六四（昭和三九）年末には、自動販売機の普及台数はわずか二三万六七〇〇にすぎなかった。その後、一〇〇万台を超えたのは七〇年。二〇〇万台を超えたのは七三年。三〇〇万台を超えたのが七六年。四〇〇万台を超えたのは七九年。五〇〇万台を超えるのは八四年である。

一九七〇年代の伸びは驚異的である。一〇年間に三〇〇万台以上の自動販売機が増えた。ほぼ三年ごとに一〇〇万台ずつ増えていたわけである。」（[引用3](#)）

1970年ごろから3年に100万台ずつ増えてきていたが、1979年から1984年にかけて自動販売機数が100万台増える今までのスパンと比べると2年ほど長くなっていることがわかる。今まで同じスパンで伸びてきたにもかかわらず、ある期間を境に台数が減っている。また、『自動販売機の文化史』が書かれた2001年の自動販売機の台数は約550万台であり、自動販売機は普及が飽和している状態にある。（[参考10](#)）2025年の自動販売機普及台数は約330万台であり、ここ20年ほどで大幅に減少している。（[参考11](#)）

●コンビニエンスストアが24時間営業になった影響

セブンイレブンが1975年に、一部店舗において24時間営業を開始したというのは上記したが、自動販売機の設置台数の伸びが落ち着いてきたのも1970年代後半からである。実際に相関関係があるのか可視化した。以下の図を参照する。



(参考12, 13)

コンビニの店舗数は自動販売機の普及台数と比べて、圧倒的な差があるため可視化しやすいようにコンビニエンスストアの店舗数は100倍にしている。鷺巣が述べたように、自動販売機は1970年代前半から1980年代前半にかけて急激な成長が見られる。しかし、1980年代後半から停滞し始める。一方、コンビニエンスストアは1985年からのデータではあるが自動販売機よりゆるやかに成長している。同じ1985年からのデータだけを見ると、コンビニエンスストアは伸び率を高めているのに対して、自動販売機は普及台数が1985年辺りから停滞していることがわかる。1985年はセブンイレブンが24時間営業を開始してから10年目であり、ローソンなどもすでに24時間営業を開始しており、ローソンは四国にまで進出している。しかし、まだ自動販売機の普及数が停滞している要因とは言い切れない。(参考14)

●無人販売、有人販売の違い

先ほども述べたように、自動販売機は無人販売であり、コンビニエンスストアは有人販売である。この販売方法で大きな差を生む商品がたばこと酒である。日本の法律において、未成年へたばこと酒を販売することは法律で禁止されている。そのため、小売店においては20歳以上であることが不確定で、確認するための顔写真付きの身分証明書が出せない場合は販売をしないように決められている。それでは、無人販売である自動販売機はどういう年齢確認を行っているのか。酒の自動販売機はカードリーダーに運転免許証内のICチップを読み込ませることで、認証を得てようやく購入することができるようになる。(参考15) 同様に、たばこの自動販売機においてもtaspo(タスポ)というカードを

かざすことで買うことができるようになる。しかし、このシステムが導入される前は当然未成年でも酒、たばこを確認することなしで買うことができた。そのため、1994年に中央酒類審議会が国税庁に対して勧告し、全国小売酒販組合中央会が既存の酒類の自動販売機の撤廃とカードリーダーによる年齢確認の導入が試みられた。にもかかわらず、この改良はなかなか進まなかった。なぜなら、撤廃や置き換えをするには多額の費用が掛かり、また24時間購入することができ、未成年者も買いやすいこともあったためなのか自動販売機の売り上げの比率が高かったからである。(参考16)つまり、未成年者も買いやさしいといったリスクから酒類の自動販売機は厳格なシステムを導入したのである。しかし、このようなシステムも欠陥的である。なぜなら、カードを親しい人から借りる、もしくは親の物を勝手に使ってしまえば購入が可能である。無人販売ではこういった抜け穴があるが、有人販売であれば店員が確認することを義務付けられているため、自動販売機よりも正確に売ることができる。酒類の自動販売機はこのような要因から撤去、または稼働が終了してきているのである。

●多種多様な品揃え

コンビニエンスストアは食品や飲料のみならず、酒やたばこ、生活用品などが1つの場所に集約している。一方、自動販売機は飲料だけ、たばこだけ、のように限定的である。また、たばこを買いたいと思い自動販売機で買ったとして、何か飲み物も飲みたいとなつた時、必ずしも近くに飲料の自動販売機が設置されているとは限らない。24時間稼働しているとはいえ、欲しいものが増えてしまったときに不便であり、面倒事も増えてしまう。一方、コンビニエンスストアで多種多様なものが店内に集約しておりついで買いがしやすく、ほとんどの店舗が24時間営業しているため、利便性を比べると自動販売機よりも高い。

6. 結論

本稿では衰退していると考えられる自動販売機について、実際に実物を撮影しに行き、紹介しつつ特徴を捉え、衰退している要因と予想されるコンビニエンスストアと比較し、参考文献を用いながら述べていった。

自動販売機をコンビニエンスストアと比較し、コンビニエンスストアは24時間営業という今まで自動販売機だけの特権であったものを導入し、また有人販売であるため未成年の飲酒・喫煙の防止を無人販売より厳格にして販売している。また、多種多様な商品をそろえることで、商品が限定的ではなくなる。自動販売機よりも安全で利便性が勝っているという利点があり、それにより生まれる差が酒類やたばこの自動販売機の衰退の要因であると私は考察する。

今後は、今回例として挙げた酒とたばこの自動販売機以外の、衰退していると考えられるものについて、機械の劣化以外の衰退の要因について言及する。また、ロケーションオーナーやオペレーターに対してインタビューを通していくことでその意見を参考に衰退の要因を突き止める。

7. 参考文献・参考図書

引用または参考にした文献は以下である。

●黒崎貴『自動販売機 世界に誇る普及と技術』日本食糧新聞社（2012）

引用 1：p1 の 9 行目から 11 行目まで

参考 1：p1 と p2 の 7 行目まで

参考 2：p2 の 8 行目から p3 の 21 行目まで

参考 3：p32 の 18 行目から p33 の 14 行目

●溝上憲文『パチンコの歴史 庶民の娯楽に群がった警察と暴力団』論創社（2024）

参考 4：p203 の 3 行目から 14 行目まで

●参考 5：株式会社ユカ「会社情報：自動販売機設置なら株式会社ユカ」

https://www.yukanet.co.jp/yuka_hp/c_company/company.html（2025年12月12日閲覧）

●参考 6：相模ゴム工業株式会社「Inside SAGAMI- 相模ゴム工業のコンドーム工場レポート」<https://www.sagami-gomu.co.jp/project/magazine/2025/sagamimsg-condomfactoryreport.html>（2025年12月12日閲覧）

●参考 7：不二ライフ株式会社「会社情報 | 代表ご挨拶・会社概要・アクセス」

<https://fujilife-co.jp/company/>（2025年12月12日閲覧）

●参考 8：セブン-イレブン「50th ARCHIVE 黎明期 | セブン-イレブン 50 周年記念サイト」<https://www.sej.co.jp/50th/archive/reimeiki/index.html>（2025年12月20日閲覧）

●参考 9：LAWSON「香川県の「小豆島」にローソン初出店 「ローソン小豆島土庄税務署前店」」https://www.lawson.co.jp/company/news/detail/1510742_2504.html（202

5年12月20日閲覧)

●鷺巣力『自動販売機の文化史』集英社（2003）

引用3：p155の8行目から14行目

参考10：p154の15行目からp155の4行目

参考12：p157 表「日本の自動販売機普及台数、自販金額統計」（日本自動販売機工業会調べ）

参考15：p223の5行目から7行目

参考16：p222の15行目からp223の5行目、p223の10行目から12行目

●参考11：[anshin-zaidan.or.jp 「今月の数字 日本における自販機の数 - あんしん Life」](https://web-anshin-life.anshin-zaidan.or.jp/the_number/202501/)

https://web-anshin-life.anshin-zaidan.or.jp/the_number/202501/（2025年12月20日閲覧）

●参考13：社会実情データ図録「図録▽コンビニエンスストアの店舗数・売上高の推移」<https://honkawa2.sakura.ne.jp/5616.html>

（2025年12月20日閲覧）

●参考14：LAWSON「ローソンの歴史 - 沿革 | ローソン公式サイト」

<https://www.lawson.co.jp/company/corporate/data/history/detail/development.html>

（2025年12月20日閲覧）